

新年度を迎えて

校長 安藤 徹



岩戸支援学校の令和5年度がスタートしました。

岩戸養護学校から引き続き岩戸支援学校長を拝命し、今年度で通算4年目を迎えることとなりました安藤 徹と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、今年度の岩戸支援学校ではA部門（肢体不自由教育部門）に6名、B部門（知的障害教育部門）に38名の計44名の新入生を迎え、学校全体では142名の生徒が在籍し、新年度の学校生活がスタートしました。部門ごとではA部門が15名、B部門が127名と、昨年度に比べA部門・B部門ともに生徒数が増加となり、全校では昨年度比11名増の142名の生徒でスタートすることとなりました。



ところで、かねてよりお知らせしてまいりましたが、4月1日より「県立岩戸養護学校」は「県立岩戸支援学校」に校名が変更となり、岩戸支援学校としての初年度を迎えました。学校としましても「岩戸支援学校」への校名変更を機に、今まで以上に「地域に開かれた学校作り」を推進していきたいと考えております。具体的には、校内外の様々な人的・物的資源を積極的に利活用した教育活動やイベントなど実施し、生徒や保護者の皆様と地域の方々、そして学校の三者の相互理解を進め、岩戸支援学校としてのミッションでもある地域の（支援教育）のセンター的機能の充実や強化を図っていきたいと考えています。

ところで、岩戸養護学校の今年度の学校運営の柱を昨年度、一昨年度に引き続き「見える化⇒わかる化⇒できる化の推進と継承」とし、今年度はさらに『**持続可能な学びの充実と学校作りを目指して**』というサブテーマを設定しました。これまでの3年間で少しずつ積み上げてきた「学習環境や授業などにおけるユニバーサルデザイン化」や「様々な業務における見える化➤分かる化➤できる化」という視点や取組みを今後も発展、継続つまり持続していけるような仕組みやしかけを検討していく1年にしたいと考えております。

話は変わりますが、今年度岩戸支援学校で予定されている大きな工事の一つとして「体育館棟の空調設備設置工事」があります。これは「夏季の熱中症対策」と「避難所利用時の快適性向上」を図るために、3年前から県立特別支援学校29校すべての体育館に空調設備（冷暖房）を順次設置するという神奈川県の実業として行われるものです。



その工事の関係で、現時点での計画では令和5年7月初めより令和6年2月末頃まで体育館棟（2Fフロア、3F卓球場）が使用できなくなります。体育や部活動の授業をはじめ、始業式や終業式などでも使用できませんが、横須賀市立岩戸中学校様のご厚意により部活動の時間を中心に一部岩戸中学校の体育館を借用させていただく予定です。あらためてこの紙面をお借りし感謝申し上げます。また、日ごろより学校施設開放で岩戸支援

学校の体育館を利用いただいている団体様につきましてもその期間の利用はできなくなりますので、どうかご了承ください。

最後となりましたが、保護者の方々、岩戸支援学校を支えていただいている地域の方々、日ごろより岩戸支援学校の教育活動にご理解・ご協力いただきありがとうございます。

それではまたあらたな1年間、どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和5年4月1日